三原市老人大学
ふれあい
第96号
発行・編集
三原市老人大学
ふれあい新聞

新老大に夢を託して

学長　植木　章弘

半世紀近きにわたり親しまれてきた老大校舎が移転することとなりました。講師の先生方、学生のみなさんには、感慨ひとしおのことかと思います。その後、生涯学習課から移転場所はサンシープラザ三階と示され、現在最重点課題である教室配置などについて協議を重ねているところであります。移転には多くの懸案事項がありますが、今年度最初の代表委員会で次のことを述べさせていただきました。

一、新教科導入、大学院拡充

新たな老大占有教室を最大限に活用して、これまでの伝統的な教科に合わせて、かねて学生のみなさんから要望のあった新教科の導入を図ってゆきたいと思います。現在事務局が導入の基礎資料として体験講座や短期講座の募集を行っています。ぜひ挑戦してみてください。さらに今後老大の充実に向けて、大学院の拡充に努めてまいります。

二、財政運営安定の基礎づくり

老大の運営は、学生のみなさんの入学金をもってする独立採算制であります。これが今日まで老大が存続した最大の要因です。これまで運営委員会で入学金見直しの提言をいただいた経緯がありましたが、繰越金を充て十年来現行の入学金を据え置いてまいりました。今後老大の充実のために、他市並みの入学金の値上げにご理解をいただきたいと思います。

三、老大の誇りと絆を繋ごう

今日の老大は先人のご苦労と学生のみなさんのご努力の賜物です。全国に誇る三原市老人大学の伝統を活かした経営を基本に、将来に向けて時代の変化に対応した新たな老大の創造に努めてゆくつもりです。みなさん、力を合わせて老大の誇りと絆を将来に繋いでまいりましょう。

継続は力なり

民謡　塩田　士郎

四月に干支の亥の八周目にかかりました。この八十四年間を振り返ると、今よりどころにしている老人クラブのことがまず頭に浮かびます。私たちのクラブもこの四月で六十年の節目を迎え、全国的にクラブ数が減少している中で健闘していると思います。私はここ二十二年間関わっておりますが、入会当時はゲートボールが活動の中心でした。また年一度の老人仕様の運動会や春秋の日帰り旅行などに、足腰のしっかりした男女の仲間が参加し盛り上がっていました。

やがて時の流れに沿うようにカラオケへの関心が増し、電気や工作の腕自慢の先輩たちが中古品を集めて、安価だが一流のオーディオを組み立てました。こうして十五年前、当時主流のレーザーディスクに加えテープも使って週一回の例会が始まり、私も勇躍参加しました。当初の十二名のうち今も健在なのは三名になりましたが、若い人たちも加わり意気盛んです。

カラオケ開始から数年後、町内会有志から「伝承の口説き盆踊りを肉声で復活できないか」と依頼され、挑戦が始まりました。雑音の混じった昔の肉声テープを聞き、大先輩の助言ももらって特訓を行いました。カラオケ仲間や地域の民謡好きの人も加わり、九年前のお盆に初披露にこぎつけました。しかし出来栄えは今一つ。やるからにはいいものにしたい。そこで六年前に老大の民謡教室に入学しました。もともと民謡にも興味があり、おさらい会にも通っていたので、老大という水を得て大満足です。そして口説き盆踊りも着実に前進しています。

これからも楽しく一歩でも半歩でも前に向かっていきたいと思います。

うれしい自然の恵み

院パソコン⑫　新宮　壮一郎

豊かな自然に囲まれた三原の暮らしには折々の楽しみがある。越してきて最初に探したのはわらびだった。母に聞くと、わらびシダを探しなさいとのこと。だがそのシダが分からない・・・いつの間にか、諦めてしまった。しかし何時だったか、家のすぐ上の原っぱで誰かが何かを探していた・・・こんな近くにあったとは！

つくしも探した。前の水路のほとりで見つけ何本かずつ食べたのを、三十年たった今でも子どもたちが懐かしがる。やがてそこには生えなくなり、つくしのことも忘れてしまった。そんなとき土手にかがんで何かを取る人々を車窓から見た。次の日、沼田川のその土手に向かった・・・あるある！広い土手を埋め尽くして！つくしを取る人々が楽しそうだった。

それから毎年春になると、七キロの道を運動がてら自転車で通った。しかし近年財政難から土手の草が刈られなくなり、土手は背丈を越すヨモギ、ススキ、萱などに覆われた。つくしは住宅側のわずかな区域でとれるのみとなり、取る人もほとんどいなくなった。

土を耕す喜びも初めて知った。秋の終わりに手のひらのような菜園でとれた大根で、念願のたくわん漬けに挑戦した。初年度の失敗の後、ようやく口にしたそれは世界で最もおいしいものに思えた。そしてここに住んでよかったと思った。来春も、わらび・つくし・畑の菜の花を入れたちらし寿司を楽しみたいものだ。

一日避難で感じたこと

大正琴　中田　敏子

昨年は空想上の出来事と思いたいような異常気象が次々に起こった。寒波に猛暑、豪雨に大型台風などなど。そのたびに大変な思いをしたが、なかでも七月六日の豪雨は甚大な被害を及ぼし、多くの尊い命が奪われた。身内を亡くされた方の悲しみの深さを思うと胸が痛む。

我が家も山の水が流れる水路が溢れ、床下浸水となった。“ドドドドー”と大きな音がしたのでびっくりして外を見ると、勢いよく家の方に水が流れていた。危険を感じ、隣の人とずぶ濡れになりながら二中へ夜八時頃避難した。無我夢中だった。

着いたときは数人だったが、いつの間にか体育館は一杯の人になっていた。中は湿度が高く、人々の体温と重なって蒸し風呂のようだった。その上蛙の合唱のようにどこかで声がする。心身ともに疲れているのに、一睡もできないまま夜が明けた。

家が気になって急いで帰った。家の周りは一面土砂の海。これからのことを思うと、泣きたくなった。

たった一日の避難生活だったが疲れきった。災害関連死が出るのもわかる気がする。一日も早く完全復興し、元の生活を取り戻せるよう心から願いたい。

今回の災害で、命を守ることの“大変さ”と“大切さ”を学んだ。そのためにどうしても必要なことは次の二つだと思う。

一、何が起きるかわからないので、避難の準備は常にしておくこと。

二、地域や近所との交流を持ち、声を掛け合い、助け合うこと。

私はといえば助けられてばかり。何か人の役に立ちたいと思いながらもできないでいる。せめて、ささやかな体験を書かせていただくとともに、災害のない平和な暮らしを祈るばかりである。

山の景色

院パソコン⑫　田辺　郁夫

春の恵下谷は山桜がきれいだ。年々木々も大きくなり存在感を増している。今年も谷の両側の山で次々に咲き、通行人を楽しませてくれた。通勤が見頃になる時は、大変得をしたように感じたものである。三原近くの山桜が終ると、地元の御調八幡宮の桜が咲き始める。お宮さんの桜は他の名所より格段の見事さで、誇らしい。お祭の頃は雨が多いのが残念だが、これも自然の成り行きにはあらがえない。その後、山桜は谷に沿って北上し、結構長い期間楽しむことが出来る。

三原に近い所まで下った所に桐の花も見える。向こうの山にも数本咲いている。本格的な夏が来た頃には、バイパス（現在の国道二号線）の駒ケ原トンネルの尾道方面入り口の斜面に山百合がたくさん咲く。途中観音さんのある所から峠に向かう道路の端や山の斜面にも次々に咲く。今年も季節を花に楽しませてもらい、また秋には漆の木が一番先に赤く染まり、その訪れを教えてくれる。

さて昨年の豪雨では恵下谷の山側の土砂崩れで約一か月余り通行止めになった。六月から復旧工事が始まったが三ヶ所が片側交互通行の状態である。今年は災害が少ないことを祈りたい。

ささえあい同窓会

院パソコン⑫　三永　利之

「やあ久しぶり、元気？」「髪が白くなったなあ」「豪雨被害はなかった？」「あんたは誰だったかなあ？」・・・ロビーは大変にぎやかでした。

今年五月に瀬戸田の旅館で、園芸試験場卒業五十五年の同窓会を行いました。この同窓会は近年二年毎に実施し、前回は徳島、今回は広島が当番でした。

広島県出身の二人が世話役で、私が事務的な事を任され、写真挿入・ネット等利用しながら資料を作成しました。老大で習っている事が大変役に立ったことを実感しました。

出欠のハガキが届くたびに一喜一憂。「参加を楽しみにしています」「妻を杖がわりに連れていきます」「病気療養中につき」等々・・・心配していた参加人数は、静岡から鹿児島まで十三県・四十五名（夫婦一五組含む）、参加率は六割で想定を上回りました。

当日は、受付終了後降っていた雨もあがり、潮香漂う屋外で高根大橋を背景に笑顔で集合写真を撮りました。

懇親会では、瀬戸内の幸を食しながら現況報告。後継者問題・健康・昔話等ワイワイ・・・初対面の女性達は、ここの魚は美味しいねと箸を進めながら趣味や旅行の話で盛り上がっていました。

二日目は、支えあいながら歩く夫婦の姿に感動しつつ平山郁夫美術館と耕三寺博物館に入館。潮聲閣と未来心の丘は初めてと大変好評でした。

昼食後、二年後の喜寿の年に、「福岡での再会を楽しみに日々無理せず元気で」を合言葉に解散しました。

今年うれしかったこと

院パソコン⑫

❤大量の紫蘇をもらい、紫蘇ジュースと絞った葉の炒め物に挑戦。とてもおいしかった！

♣孫と和凧を作った。小学校の屋根よりはるかに高く揚がった。

❤日帰り旅行。岡山の涼しい洞窟で六千五百歩も歩けたよ！

♣初孫が小学一年生を迎えられたことがとてもうれしい。

❤クラスの人数が減り寂しくなったが、和気あいあいと楽しく過ごせている。

❤初孫が広島大学に入学。私たちへの最高のプレゼント。

編集後記

全員が初めてのことだったので、早くから取り組んだ。大変だったが、いろんな人の豊かな経験に触れることができ、楽しかった。それにつけても老大の皆さん全体から記事を集められたら、どんなに楽しいものができるだろうと思った。・・・担当は院パソコン⑫でした。